

農業



平成29年7月号
会誌 No. 1627

目次

巻頭言

水田農業の行方……………雨宮 宏司 3

論壇

国際機関による途上国の農業支援を考える……………田中 耕司 4

農業懇話会

農業（野菜経営）にイノベーションを！……………田中 進 6
－サラダボウルの挑戦－
質疑応答…………… 16

農事功績者座談会

養豚・食肉製品加工・農産物直売等の法人経営…………… 24
地域の人・もの・環境を活かした農村産業……………伊藤 秀雄 25
現地指導者のコメント……………植松 克彦 33
意見交換…………… 35

研究の最前線

超強力小麦「ゆめちから」等新規国産小麦粉の利用・加工……山内 宏昭 44
－身近になった国産小麦粉のパン－

農業・農村の現場から

- 農事組合法人の一員としてがんばる女性加工グループ……………中村 貴子 56
-大阪府茨木市・農事組合法人見山の郷交流施設組合の取組み-

世界の農業は今

- ギビロンド家の農地……………諸岡 慶昇 62
-フィリピン稲作農家の50年を追って-

私の経営と志

- 未来を育む「恩返し農業」……………竹本 彰吾 67

農政情報

- …………… 69

- 大日本農会だより…………… 70

- 編集部から…………… 70

ミニ情報

- 地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(8)…………… 61
三会堂ビルロビーホールに「唐箕(とうみ)」を展示…………… 69

表紙写真説明

ニンニクの収穫(青森県三戸郡南部町)

青森県のニンニクの作付面積は1,350ha、出荷量は9,980t(2015年)で、国内出荷量の約7割を占め、青森県は日本一の生産県である(「あおもりの野菜っこ」平成28年度版)。青森県では八戸市・十和田市・おいらせ町・五戸町・六戸町・三沢市・田子町・東北町などの県南地域での生産が盛んである。

青森県産ニンニクの高級ブランド「福地ホワイト六片種」は、青森県福地村(現南部町福地地区)が原産地で、雪のような美しい白さから「福地ホワイト」と名付けられた。1玉につく鱗片は4~6片と少なく、1粒が大きいのが特徴で、味も濃厚で甘味がある。この品種の栽培は1962年に田子町で本格的に始まり、1970年代から水田転換により全県に拡大し、ニンニクの高級ブランドとして定着している。

6月下旬から7月上旬にかけてのニンニクの収穫時期を迎え、十和田市、六戸町、東北町などの大規模な産地では機械収穫が行われているが、原産地の南部町では小規模ながら、あちらこちらで手作業による収穫が行われている。

(編集部)